

読書推進活動～読書出前授業の実践～

飛渡第一小学校 高橋しげ子

1 はじめに

ここ数年、読書推進活動について書いてきました。その取組をもっと進めるために、25年度は、十日町市教育センターの事業の一つとして、「楽しい読書『出前授業』」という形で取り組むことになりました。お陰様で、市内の小学校を中心にして授業をさせていただく機会に恵まれました。また、4つの中学校、市外の小学校からも依頼を受け、授業をしたり、講話にでかけたりすることができました。その実践の様子を書きます。

2 実践の様子

(1) 実施要項

十日町市教育センターが出した実施要項は以下のようになっています。

平成25年度「小学校『楽しい読書』出前授業」実施要項

十日町市教育センター

1 目的

- 小学生を対象とした外部講師による読書推進のための出前授業を実施することにより、読書への関心や意欲を高める。

2 事業の内容

(1) 出前授業について

- ①希望する学校の学年または学級児童を対象とする。
- ②授業は、1単位時間(45分)を原則とする。
- ③講師は十日町市教育センター(以下;「センター」と記す。)が委嘱し、派遣する。
- ④派遣に伴う経費(旅費)は、センターが支弁する。
- ⑤授業内容は、別紙の「指導案(例)」を基本とする。ただし、低学年・中学年・高学年によって紹介する本や指導内容を工夫する。

(2) 平成25年度の外部講師

- ・十日町市立飛渡第一小学校長 高橋しげ子 先生
※平成23～24年度と、郡市内7校で授業実践をしている。

(3) 申込と手続き

- ①希望校の担当者は、事前に講師(飛渡第一小学校 ☎759-2077)へ電話をし、日程調整を行う。
- ②希望校の担当者は、別紙様式1-①「読書推進出前授業申込書」に必要事項を記入し、センターへ送付する。
※担当;尾身辰二宛(個人メール)で、ファイルを添付して送付する。
- ③センターは受け付け後、希望校の担当者宛てにメールで様式1を再送付する。
- ④センターは、講師へ派遣申請を送付する。
- ⑤希望校の担当者は、様式1-②「実施報告書」を記入し、センターへメール添付・送付する。
- ⑥センターは月単位で実施状況を集約し、講師へ旅費を支給する。

3 留意事項

- ・講師の都合等で希望どおりに実施できない場合もある。

この実施要項に沿って、各校から依頼があり、2学期末までに、他市の学校を含めて小学校には11回、中学校には4回出かけました。

(2) 指導案…下の指導案を基本にして授業を進めました。

- 1 ねらい ◎読書について考えたり、本の紹介を聞いたりすることを通して、読書への意欲や関心を高める。
評価；読みたい本を見つけることができたか。(ワークシートから)
- 2 主な流れ

時間	○学習活動 ・児童の意識や思考	T教師の働き掛け ☆評価
5分	○本時のねらいを知る。 ・読書についてどんな話があるかな。 ・どんな本を紹介してもらえるかな。	T今日は、読書について考えたり、本の紹介を聞いてもらったりします。そして、最後に、この本を読んでもたいと思うような本に出合ってください。 ☆ねらいを理解する。(うなずき・表情)
20分	○読書は好きか嫌いかを選び、その理由を書く。 好き…面白いから。想像するのが楽しい。 嫌い…字を読むのが面倒。ゲームの方が楽しい。 ○読書のよさを考えて書きましょう。 ・字を覚える。 ・読む力がつく。 ・疑似体験ができる。 ・知識が増える。 ○「うちどく」について知る。	T読書は好きですか？嫌いですか？どちらかを選んで○をつけて、その理由を書きましょう。 T(全員が書いたら)グループでつなげてトークをしましょう。(机間指導をしていく。) Tグループで出た意見をまとめて発表してください。(代表を指名する。) T読書は好きな人も嫌いな人もいますが、読書はいいことだというのはよく聞きますね。では、読書はどんないいところがあるのでしょうか。読書のよさを考えて書きましょう。(「読書は心と頭の栄養」を示す。) ☆読書のよさについて考えたり、気づいたりすることができた。(ワークシートより) T「うちどく」についてお話します。(説明をして、家庭でも本を読むように呼びかけをする。)
20分	○本の紹介を聞く。 ・読んで見たくなる本はあるかな。 ・自分の力で読めそうな本はあるかな。	T読書のよさはたくさんありますね。しかし、嫌いな人もいます。私は、ぜひ、みなさんには読書好きになってほしいと願います。そこで、これから何冊か本を紹介します。まず、飛一の3人も最近読んだ本の中から1冊を紹介します。その後に、私も紹介します。ぜひ、その中から1冊でも読んでみたいと思う本に出合ってください。 T(本を紹介する。) ☆本の紹介に興味関心をもって聞くことができた。(表情)
5分	○今日の学習の振り返りをする。	T紹介された中に読んでみたいと思う本があったらその本の題名とその理由、読みたいと思う本がなかった人は、今日の授業の感想を書きましょう。 ☆授業を振り返り、達成感を得ることができる。(振り返りカード)

○1時間の中に、様々な活動を組み込む。

「読む」が目標でも、書いたり、話したり、聞いたりする活動を組み込む。

○授業後に達成感を得られるようにする。

「分かった!」「できた!」「ようしやるぞ!」がある授業にする。

(3) 授業の様子



<水沢小学校>



<中条中学校>



<橋小学校>

どこの学校（小学校も中学校も）の子どもたちも、とても真剣に考えたり、書いたり、聞いたりしてくれました。反応が良くて、発言もたくさんしてくれたので、毎回授業が楽しかったです。

(2) の指導案にあるように、授業の柱は、下の①②のように2つです。

①読書について考える。

- ・好きか嫌いかを決め理由を書く。
- ・読書の良さを考えて書く。(なぜ、大人は読書を勧めるのか?)

②本の紹介を聞く。

そして、授業の最後に「あの本を読みたいな。」と思う本があればねらい達成です。読みたい本がなかった子は、この出前授業をやってきてほとんどいませんでした。ありがたいことです。最初に、読書は嫌いだと書いていた子も、最後には、あの本を読んでみようかなと思ってもらえた時に、ああ授業をして良かったとしみじみ思いました。

紹介する本は、小学校であれば飛渡第一小学校にある本を選んで持って行きました。中学校の場合は、事前に中学校の図書室を訪問して、本を選んで紹介しました。そして、紹介が終わったら、そのままその本を中学校に置いてきました。中学校では、「お勧めのコーナー」を作って、本を並べてくれたようです。もちろん、手持ちの本を付け加えることもありました。

この授業をするにあたり、次のメッセージを伝えるようにしていました。

無理して難しい本を読まなくていい。まずは絵本から始めよう。絵本は奥が深い。大人も十分感動する。読書が苦手な人は、まずは絵本から読もう。

また、先生方には、「その子に合った本を手渡す」をメッセージにしていました。「読書論」(by 斎藤孝)の中に、「読書はしてもしなくてもいいものではなく、身につけなければならない技である。」という文があります。「技」であるなら、その本を読む力がないのに読ませようとしても無理です。「学年に応じた本」ではなく、その子に合った本を読むように「手渡す」までやることです。

という考えから、紹介する本には、必ず絵本を入れました。特にお気に入りには「100万回生きたねこ」(by 佐野洋子)です。大人も泣ける本、小さい子も読める本…最高です。また、中学校では、部活動に関する本「DIVE」(by 森絵都)、「一瞬の風になれ」(by 佐藤多佳子)、「バッテリー」(by あさのあつこ)等を入れるようにしました。

この出前授業をするようになって、児童図書を前よりももっと読むようになりました。今年度、県立図書館から「100冊の本」を2回学校で借りることができました。その本を、子どもたちに負けないくらい私は読みました。一度読んだことがある本もまた楽しく読めました。そして、子どもたちと本の話ができるのはとても嬉しいことです。

(3) 子どもたちの反応

授業で書いたワークシートを紹介します。

(中学校 一年生)

十一月六日 (水) 名前
〇読書について考えたり、本の紹介を聞いたりして、読みたい本に出会いましょう。

一 あなたは読書が好きですか？嫌いですか？どちらかに〇をその理由を書きましょう。

好き

嫌い

なぜ嫌いかというところ、細かい字や読めない漢字があったりして、長文だったりするので嫌いです。

大きな字、短い本から始めてみてみたい。

二
知らない漢字が多かったり、よく分からない言葉ばかりで覚えずに、あんまり内容が入らなくても、読むことの大切さが分かるかもしれない。

三 「題名一瞬の風になれ

なぜかといつと、陸上部やハードルなので走ることはするし、走り方などいそその本を読んで分かることかできたらいいなと思っていました。

練習のことや試合(大会)のことなども書いてあるので、きょう参考になります。



(小学校 四年生)

十一月十二日 (火) 名前
〇読書について考えたり、本の紹介を聞いたりして、読みたい本に出会いましょう。

一 あなたは読書が好きですか？嫌いですか？どちらかに〇をそのわけを書きましょう。

好き

嫌い

読書はじつかに読めるしおもしろいし、作業中できるから

集めて読める人は、力がありますね

二
なぜ大人は読書をすすめるのでしょうか。どうも面白くない本を読んでみるべしな大人にならばいいし、ゲームはやり続けていると目が垂くなるし、頭をしゃかり動かさせてほしいから

三 「カ物と話せる少女リリアネ

理由はあんまり動物のしぐさ目も動物の言葉がハカからなくて困っていたので、動物園にきていたリリアネが助してくれるし、あまり読んだことがないので、ぜひ読んでみたいです。

本が動物と話ができたらいいですね。リリアネの活字を読んでください。



2 まとめ

出前授業をするようになった発端は、飛渡第一小学校の課題解決が最初の目的でした。飛渡第一小学校には、

- ・極小規模の中で安穏とした生活で刺激が少ない。
- ・大勢の前では自分を表現するのが苦手だ。
- ・中学校へ進んでから不登校になってしまった子がいた。

という課題がありました。赴任した際、それを何とか解決していきたいと考えました。そこで、私が学校経営の柱の一つとして考えている「読書推進活動」とからめて、

子どもたちを他校に連れて行って、本の紹介を大勢の前でする機会を作ろう。

ということを考えつきました。紹介するためには本を読んで、どんな方法で紹介しようか考えます。実際の紹介の練習もします。その中で、子どもたちは、

○進んで本を読むようになった。

…もちろん読書推進のために他の様々な取組もしていますが、確実に読書量は増えました。

○本の内容や特徴をとらえて紹介する方法が身に付いた。

…さし絵を見せたり、一部分を読んだり、主人公を紹介したり、クイズを出したり等、様々な紹介方法を使えるようになりました。

○自信をつけた。

…大勢の前でも堂々と発表できるようになり、他校の先生方からほめていただく機会がたくさんありました。「自分達はできるんだ。」という自信につながりました。

以上が、飛渡第一小学校の子どもたちの姿に現れた成果です。

私自身の取組として振り返ると、市教育センターの事業となったことで、

○きちんとした形で依頼がある。

…昨年までは、個人的な知り合いの先生から頼まれたり、交流をお願いしたい学校に頼んだりして出前授業をしていましたが、今年度はきちんとした形になったので、多くの学校から依頼を受けることができました。

○たくさんのお本に出合った。

…これまで以上に児童書に興味をわき、手に取るようになりました。いい本がたくさんあり、もっと早くに読めば良かったと思ったことも何度もありました。また、前に読んだことがある本も、再度読み直して改めて感じることもあり、本当に良かったです。

○子どもたちは読書や本が好きだと分かった。

…読書を好きだと答えた子が多かったです。嫌いだと答えた子でも、興味のある本を紹介すると飛びついていました。嬉しいことでした。



<橋小学校 3年生>



県立図書館から借りた「定番100冊の本」です。絵本は全部読みました。今は、少し厚めの本を順に読んでいます。

読書推進は、私の教師道貫くテーマです。これからはたくさんのお本を読み、たくさんのお本を紹介する活動を進めていきます。